

あぶくま信用金庫と 連携協定を結びました



同信金から寄贈された木彫のある交流センター「ふれ愛館」での締結式。太田理事長（右）と菅野村長

村は、8月1日、あぶくま信用金庫と「地域密着総合連携協定」を締結し、会見を行いました。会見では、同信金の太田福裕（よしひろ）理事長が「地域密着型の取り組みを行うと共に、ネットワークを生かして風評払拭、人口増加にも寄与したい」と述べ、菅野村長が「感謝と大きな期待を感じている。互いにプラスになる協定にしたい」と語りました。同信金は同日、村に居住する（予定を含む）人を対象とした優遇金利の住宅・教育ローンの取り扱いを、期間限定でスタートしています。

ますます元気に物産をPR！ 目黒リバーサイドフェスティバル

7月27・28日、東京都の目黒区民センターで開かれた「第56回目黒リバーサイドフェスティバル」に出展し、村の物産をPRしました。村は、このイベントに、平成22年から連続出展しています。

今年は、「美彩恋人（渡邊とみ子代表／前田・八和木）」「氣まぐれ茶屋ちえこ（佐々木千栄子代表／佐須）」「ニコニコ菅野農園（菅野クニ代表／宮内）」「ふるさと飯館なでしこ館（高橋トク子代表／深谷）」の魅力的な商品が並んだ他、村民手作りの雑貨も販売しました。



各地のブースが並ぶ「産直コーナー」で、商品の魅力と共に、前進する村の姿も発信しました

村で農業しませんか？ 「マイナビ就農フェスト」へ



ブースを訪問した人の希望に耳を傾けながら、新規就農者への支援策などを、ていねいに説明しました

8月4日、復興対策課農政第一係が、東京都で開かれた「マイナビ就農フェスト」に出展しました。村のブースには、8組の就農希望者が訪れ、村の担当者が、現在の営農の様子や、優れた技術を持つ農家が多数いること、村で就農する際の支援策などを、具体的に紹介。参加者からは、「話を聞いて花き栽培に興味を持った」「村内で農業研修をしてみたい」などの声が聞かれました。また、同31日の相双バスツアー（県主催）にも、フェストの参加者が加わって、実際に村を訪れました。

湖面に輝く花火700人が鑑賞 はやま湖花火大会

7月27日、はやま湖（真野ダム）の湖畔で開催された「はやま湖花火大会」。開会時には、暮れゆく光の中で、地元・大倉地区に伝わる「大倉の神楽」が上演され、オープニングを彩りました。この花火大会は、湖面に映る光の美しさと、谷間にこだまする打ち上げ音が、他にはない魅力です。スターミンや水中花火など、約1,000発の花火が描く幻想的な景色を、昨年を上回る約700人の観客が楽しみました。また、地区の皆さんによる手作りの屋台も人気を集めていました。



夜空と湖面を輝かせる美しい花火。ドンと響いてこだまする打ち上げ音も、この花火大会の名物です

「道の日」に合わせて 村内関連企業が道路美化活動



交流センターでの出発式。道の駅と二枚橋地区を起点に、2班に分かれてゴミ拾いを行いました

「道路ふれあい月間」の行事として、毎年8月10日の「道の日」に合わせて、各地で道路の美化活動が行われています。村では今年も、相双建設事務所と地元企業、村の関連部署などが協力し、県道原町川俣線で、9日に、美化活動を実施しました。当日は、約40人が活動に参加し、交流センターで出発式を行った後、2班に分かれて路上のゴミ拾いなどを行いました。暑さが厳しい中、お盆休みの帰省などで利用者が増加する道路を、手作業で、きれいにさせていただきました。

「AKARA」の迫力ステージ 和楽器ロックの魅力を満喫

7月28日、交流センター自主文化事業として、和楽器ロックバンド「AKARA」のコンサートが開かれました。AKARAは、箏や篠笛などの和楽器を使うロックバンドで、ロックの激しさと日本の伝統音楽を融合させた独特のサウンドが、ヨーロッパなどで高い評価を受けています。また、休憩時間には、東京大学医学部のチームによる「薬膳料理」の体験教室も開かれ、村内外から集まったおよそ90人が、迫力ある音楽と、ちょっとした工夫のできる薬膳料理を楽しみました。



交流センター「ふれ愛館」のステージで演奏するAKARA。ホールいっぱいの聴衆を魅了しました